

野外活動の 安全ノート

H15.7

海の活動と安全対策

ハイキングの安全対策

野外に於ける危険な生物

スカウト活動に必要な保険



ボーイスカウト埼玉県連盟

健康・安全委員会

目 次

海の活動と安全対策	1
1. 海水浴での安全	
どこで泳ぐの？	
もしもの措置	
水に入る場合の最低限の心がけ	
2. 磯遊びでの安全対策	
3. 釣りの安全対策	
4. 服装について	
5. 危険な海洋生物	
6. 熱中症に対する安全対策	
7. 海の活動に対するチェックシート	
ハイキングの安全対策	10
1. 下見	
2. 目的を持つ	
3. 計画を立てる	
4. 装備品と服装	
野外に於ける危険な生物	12
1. 危害を加える身近な生物	
2. 野外活動における危険な生物	
スカウト活動に必要な保険	23
1. 傷害保険	

海の活動と安全対策

スカウト活動においては、多くの野外活動場所がある。

その一つの海での活動は、山や平原または川での活動とは違った豊かさがある。

大きな海、潮風、波のざわめき、生命の源である海には、スカウトの気持ちを引き付ける魅力を秘めており、スカウトの人格を育てるための力がみなぎっている場でもある。

しかし、海には当然多くの危険が潜んでいることも忘れてはならない。今回取り上げた海での活動は代表的なものに限定しているが、予防措置として最低限はこれだけは備えていなければならないものである。われわれはこれ以外にも多くの事に最善の知識と予防対策を講じることは、過去の事故から学ぶべきことと考える。

1. 海水浴での安全対策

○どこで泳ぐの？

ライフセーバーや監視員がいるほとんどの浜では遊泳エリアが決まっています。『赤と黄色二色の旗の間』が遊泳エリアです。沖にもブイが張ってある場合があります。その場合は旗とブイと浜辺で囲まれた長方形の部分が遊泳エリアとなります。

遊泳エリアの外はサーファーやボディーボーダーのためのサーフエリアです。

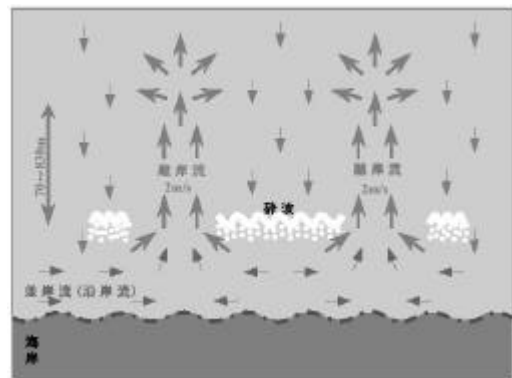
サーフボードとの接触事故は毎年多数発生しています。また、海辺の事故の 90%以上が、遊泳エリア外での遊泳客の事故といっても過言ではありません。

また、そういった場所は、急激に深くなっていると、いうこともあります。『離岸流（りがんりゅう）』が発生する為に禁止区域に指定されていることもあるのです。

1. 離岸流

離岸流とは、海岸から沖に向かう激しい流れのことで、その潮筋にあるものをすべてさらっていきます。これに巻き込まれると気づいた時にはかなり沖まで流されており、あわてて戻ろうとしておぼれるケースが殆どです。

離岸流は強い風が吹いている時に発生しやすく、また、海底が砂地で海岸線に対して窪地が走っており、そこで波がぶつかり砕けているようなところで発生します。



—注意—

ゴミなどの浮遊物が沖合いに向けて筋を引いているところがあったら、そこに離岸流が発生している可能性があります。近寄らないようにしましょう。

—もしもの措置—

もしも離岸流にさらわれてしまったら。そこから決して海岸に向かって泳ごうとしないで下さい。離岸流はプロの水泳選手でさえ太刀打ちできません。泳げば泳ぐほど体力を消耗するだけです。海岸線と平行にしばらく泳ぎその後海岸に向けて泳いで下さい。離岸流の幅はそれほど広くありませんので、横切ることによって簡単に脱出できます。

2. 高波

一様に見えても予期しないほどの大きな波が来ることがあります。特に台風から生じた「うねり」がある時は注意が必要です。平均的な高さの2倍もの波が発生すると言われています。



3. 深み

なだらかに見える砂浜でも海の中は急に深くなっている場所があります。潮の流れや波の影響で海底は常に変化しています。



○もしもの措置

たすけてサイン！

浜に向かって片手を大きく振りましょう。自分がおぼれそうな時はもちろん、誰かがおぼれているのを発見したときもこのサインで、リーダーや仲間のスカウトに合図をして下さい。リーダーやスカウトが発見するよりも、ライフセーバーや監視員が溺者に近く早期発見する場合があります。あわてないで、片手を大きく振って冷静に助けを呼びましょう！

ライフセーバーや監視員がいない浜では？

スカウトがいなくなった、誰かがおぼれている！など海難人身事故に遭遇した、または目撃した場合は、局番なしの118番が海の事故の緊急連絡先です。携帯からでもPHSからでもつながります。誰かがやってくれると待っていないで、勇気を出して連絡してください。海辺の事故は一分でも早い対応が必要です。

バディシステム

バディシステムとは、二人組制をとっています。必ず相手のスカウトとともに行動し、相手を気遣い、お互いに尊重し助け合うことで、事故が発生した際の迅速な対応がとれるシステムです。

○水に入る場合の最低限の心がけ

1. 泳ぐ直前の激しい呼吸や深呼吸の繰り返し

激しい呼吸や深呼吸を繰り返した場合、体内の二酸化炭素を多く放出します。

これにより体内の酸素が足りなくなっても呼吸をしなさいという命令が脳から発信されなくなります。そのため苦しさを覚える前に、意識が無くなってしまいます。したがって、泳ぐ直前には、ゆったりした呼吸で息を整えるようにし、激しい呼吸や深呼吸を繰り返すことは避けるようにしましょう。

2. 満腹時には水に入らない

お腹が満腹状態にあると胃がふくれることにより横隔膜が押し上げられ、肺や心臓が圧迫されることになります。この状態で泳ぐと、血液の循環が妨げられ、脳への血液（酸素供給）が充分に行き届かなくなり、意識障害を引き起こす可能性が高くなります。

したがって、食後は、必ず、100 分以上経過してから、水に入るようにしましょう。

3. 体調や気分が優れない時などは水に入らない

水中では、心臓や肺や三半器官など、体の様々なところへ負担がかかって、貧血やめまいを起こす可能性が高くなります。

飲酒時、二日酔い、体調や気分が優れない時などは、絶対に水に入らないようにしましょう。

また、空腹で血糖値が下がっている状態で海に入ると貧血を起こす可能性がありますし、体内の塩分が不足すると（大量の汗をかいた場合など）筋肉が吊って動けなくなる場合があります。

2. 磯遊びでの安全対策

基本的なスタイルとしては、日差し対策として上着・帽子等を忘れずに。出来れば長袖・長ズボンを用意しておいた方が良いでしょう。カニや貝・岩場で怪我をしないように軍手をするようにしましょう。足を守るためにマリンブーツやスニーカーなどの厚底の靴を履くこと。（ビーチサンダル等は不適切）だからと言ってむやみにサンゴ礁の上を歩くのはやめましょう。単独行動は危険な場合があります。必ず複数で活動をするようにしましょう。夕方・日没後は、足場が悪いところが多く、危険ですから海には近づかないようにしましょう。また、悪天候のときは、無理をして海に出ないようにしましょう。

3. 海釣りの安全対策

1. 磯釣り

岩礁の先端や、あるいは外海の無人の岩場を釣り場にして大物を狙うのが磯釣りです。

－磯釣りポイント－

磯の複雑な地形をじょうずに利用するのがコツ。

2. 防波堤釣り

防波堤は、船の安全を守るための施設です。しかし、一方で防波堤は潮の流れの変化によって、季節ごとに違う種類の魚が集まるよい釣り場になります。

－防波堤のポイント－

底の岩礁地帯にすむ魚、海藻の茂ったところを好む魚など、種類が多い分、釣り方も様々です。

3. 投げ釣り

海岸から竿を大きく振りかぶって仕掛けを遠投するのが投げ釣りです。

－投げ釣りのポイント－

ポイントへ仕掛けをきちんと投げるのが基本です。

ダイナミックに釣りましょう。しかし、回りに気を付けて竿を振りましょう。

—注意事項—

次に掲げる4点の注意事項については、いつも心がけるようにしていただき、釣りに行く際は万全の態勢でもって出かけるようにしましょう。

1. 釣りに行く日の天候には充分注意する。

数日前から177番やテレビ・ラジオの天気予報で情報を入手し、当日の天気が悪い傾向にあれば、無理に釣行することはお勧めできません。気象面では、特に落雷・突風には充分注意して下さい。

2. 単独で釣りに行くことは避ける。

周りに誰もいなければ助けてもらえないということになります。また、しかるべきところに行き先・渡船店の連絡先・帰宅時刻等を必ず伝えておくようにしましょう。

3. 安全な釣り場を選ぶ。

足場の狭いところ、滑りやすいところ、波が打ち上げてくるようなところは避けましょう。波をかぶっていた岩やテトラポッドにはコケが付着し、滑りやすくなっていますので特に注意が必要です。

4. 体調に注意する。

釣りに行く際は、充分な睡眠と万全の体調でもって出かけるようにしましょう。

4. 服装について

最近、フィッシングスーツといったものが多数出回っており、軽くて動きやすく、水や風を通さないため、かなり実用的です。夏は日光の照り返しが強いので、Tシャツ1枚といったスタイルは極力避け、風通しのよい長袖のダンガリーシャツなどが良いでしょう。また、出かける時には風が吹いていなくても、海上へ出れば強い風が吹いている場合が多いので、予備の上着はできるだけ持っていくようにして下さい。

ズボンについては長ズボン（動きやすいソフトジーンズや綿パンなど）がよいでしょう。靴は裏底に凹凸のあるスニーカーや軽目の登山靴を履くようにして下さい。裏底がツルツルのスニーカーは滑りやすいため危険です。特に渡船を利用する際は、船中の床が水に濡れて大変滑りやすくなっていますので足元が滑らないように注意して下さい。

また、ほとんどの波止は足元から数メートルの水深があるため、ライフジャケットは必ず着用するようにして下さい。ちなみに、冬場は冷たい北西の季節風が吹くので、防寒着（厚手のジャンパー）など、しっかりと着込んだうえで出かけるようにして下さい（冬の海辺はごっつ寒いですよ！）。また、低温で手がかじかみ、エサや仕掛けがつけにくくなりますので、釣り用の手袋をはめた方がよいでしょう。最後に、天気予報での降水確率がたとえ低い場合であっても、雨具は必ず持参するようにして下さい。海の気象は急変することが多いものですから。

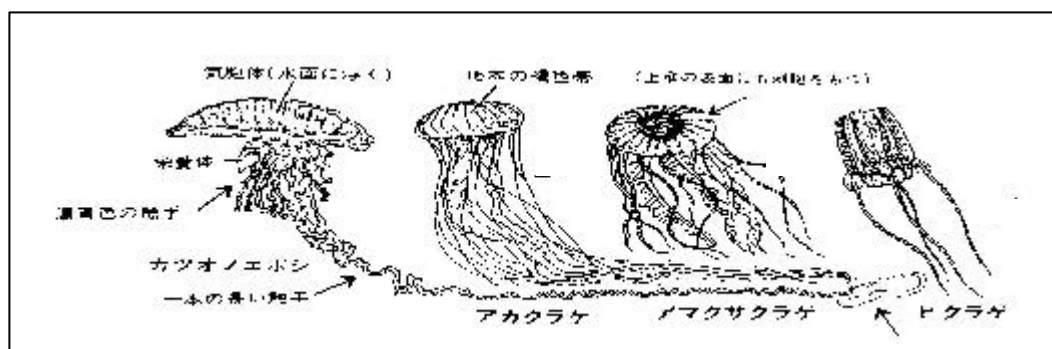


5. 危険な海洋生物

危険生物（有毒・トゲ・菌など）に注意しましょう。万一、被害にあったら、応急処置を行い、速やかに病院に行きましょう。

クラゲ類：

危険度	名称	発生時期	発生地域
1	アンドンクラゲ	6月～9月	お盆の頃、三浦半島にも出現
1	ヒクラゲ	9月～2月	三浦半島、伊豆半島にも出現
1	カツオノエボシ	3月～8月	
1	コボウズニラ	3月～5月	本州中部以南で春に出現
1	ボウズニラ	3月～5月	
1	アマクサクラゲ	6月～8月	本州中部以南、特に天草地方
2	アカクラゲ	1月～6月	全国各地
2	オキクラゲ	6月～8月	黒潮に乗って日本にやってくる外洋性クラゲ
2	カギノテクラゲ	3月～8月	各地の海藻や海草の間に見られる
2	ハナガサクラゲ	3月～8月	本州中部から九州にかけて分布
3	ユウレイクラゲ	通年	本州中部以南
3	ムラサキクラゲ	通年	関東以南の太平洋岸
4	タコクラゲ	6月～8月	関東以南の温暖な地域
4	エチゼンクラゲ	6月～11月	本州の日本海沿岸



カツオエボシ：クラゲの仲間です。長い触手に触ると強い灼熱感があり、ミミズばれを起こします。最悪の場合は、全身症状として、ショックを起こします。嘔吐・呼吸困難から死亡することもあります。

サンゴ類：サンゴには触手を持つ小さなポリプがたくさんあり、強い毒を持つ種類も少なくありません。触れるとやけどしたような瞬間的な痛みが走り刺痛が続き局所は赤く腫れ、いつまでもかゆみが残ります。ショックで発熱することもあります。

#適切な処置：刺された人を溺れないように注意しましょう。

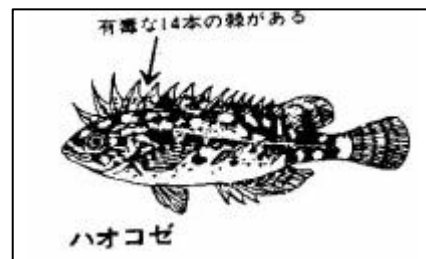
皮膚に付着する触手に大量の食酢をかけ、ゆっくりと触手をはずします。
触手が付いている場合には、ピンセットなどで取り除きます。手のひらや指は、皮膚が厚いので貫通することは少ないが気を付けましょう。こすったり、傷ついたり、更に奥まで毒物が体内に入るので気を付けましょう。
アルコールとかは、更に毒が回るので避けるようにしましょう。
痛みを和らげるため、氷で冷やしたりシップを張るのも効果的です。
死因原因は、呼吸困難。一過性なので、人工呼吸を行い、呼吸の継続が大事です。

イモガイ：巻き貝の仲間です。毒もりを持っています。「貝殻がきれい」と素手で触れると、刺されます。刺されたところには、穴が開き、周囲には紫斑ができ、強い灼熱感があります。手足の痺れ感から、全身麻痺、やがて意識不明となり、呼吸困難により死亡することもあります。

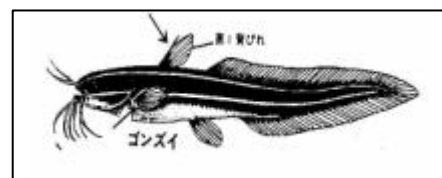
キョウモンダコ：体長 12cm 位の小さなタコです。驚くとコバルトブルーの輪紋が現れ、いかにも毒々しい感じがします。かまれると、口の渴き、嘔吐、運動失調、衰弱、呼吸困難、けいれん、意識不明の後死亡することもあります。

#適切な処置：刺された箇所が分かっていたら、少し切開して毒を吸い出します。タオルなどで患部を圧迫して巻き、必ず安静にし、至急病院に搬送します。

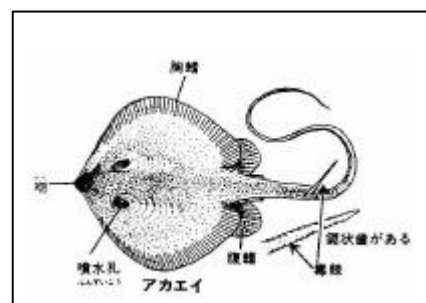
オコゼ：岩のような体形の魚です。背びれのトゲに毒があります。
刺されると激痛が走り、痛みは数時間続きます。局所は初め貧血状態になり、紫色に変色し、やがて赤く腫れ、ひどく熱を持ちます。全身症状としては、心障害、吐き気、関節痛などが見られ、死亡する場合もあります。



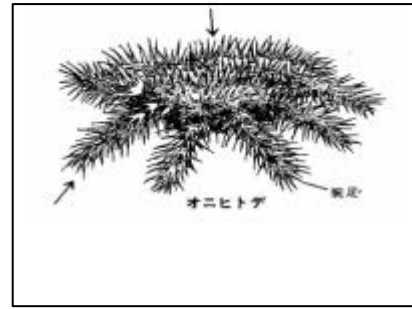
ゴンズイ：ナマズ型の魚です。背びれの最前と左右の胸びれに毒トゲがあり、刺されるとすぐに疼痛が起こります。激しい痛みは、徐々に周囲に広がり、疼痛は 48 時間ぐらいい続きます。



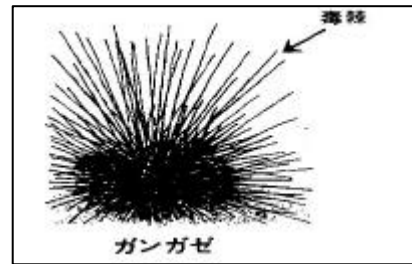
アカエイ：尾の付け根付近に大きな有毒のトゲを一本持っています。毒トゲに触れると深い傷を受け、毒による激痛があります。傷口周辺は腫れ、赤紫に変色します。全身症状では、血圧降下、下痢、発汗などが見られます。



オニヒトデ：サンゴ礁に住む大型のヒトデです。腕や背面に鋭く太いトゲがあり、刺されると直後に強い放散痛があり、局部を中心として麻痺を起こします。傷は治りにくく壊死することもあります。全身症状では、胸内苦悶を起こし、口から泡を吐き死亡する例もあります。



ガンカゼ：ウニの仲間です。長いトゲを持っています。刺傷は強い灼熱感を覚え、赤く腫れ疼痛が続きます。重症の場合は、手足筋肉の麻痺や、呼吸困難を起こすことがあります。



#適切な処置：40～50 度のお湯（刺されていない方の指などで熱さの確認を！）で、刺された部位を 60～90 分気長に浸します。痛みが和らぐまでを目安にします。傷口を高くしておくことで腫れが減る。

@予防：触らないこと。エイのトゲは靴を履いていても防ぐことは出来ない。

この他にも海の中には、毒を持っている生き物がいます。これらの毒は、生物たちが生き抜いてきた中で得てきた物であり、ほとんどが自分自身の守るために使われています。こちらが何もしないのに刺しに来ることはありません。捕まえてみたり、踏みつけた場合に彼らは、自分を守るために我々を刺してきます。予防には、まず活動するエリアに危険な生き物がいるかを調べておくことが必要です。水中で知らない物には、手を出さないことも大切なことです。海の生き物の毒は紹介したように意外に強く、ショック症状を起こして死に至るケースもありますから、応急処置をしたら、病浚で診察を受ける必要があります。

6. 熱中症に対する安全対策

夏の炎天下の中、帽子もかぶらないで、外で何時間も遊んでいると熱中症にかかってしまいます。

★どんな症状が出るのでしょうか？

1. だるい
2. 頭が痛い
3. 手足がしびれる
4. 顔色が悪い
5. 吐き気がする
6. クラクラする
7. 意識障害（一すぐに医療機関へー）

—注意—

最悪の場合、死に至るとも言われている『熱中症』。熱中症にかからない為に、夏の炎天下では

1. こまめに水分・塩分を補給する。
2. 長時間炎天下にいない。（真夏は1時間炎天下にいる場合は要注意）
3. 帽子をかぶる。
4. 突然激しい運動をしない。
5. 体調が悪い人、風邪をひいている人、飲酒している人
などはなるべく日陰などにいて炎天下にさらされない。

以上のことには最低でも気をつけましょう！そして、とにかく体調が悪くなったら、すぐに体に気を使いましょう！

—もしもの措置—

以下の応急手当をしましょう。〈症状がひどい場合はすぐに、医療機関へ行きましょう！〉

1. 風通しのよい涼しいところで、衣服をゆるめ安静にする
2. スポーツドリンクを飲む〈ちびちび飲みましょう。一気に飲むのは×〉なければ、水分と塩分を補給しましょう
3. 体が火照っているようなら冷やしましょう（わきの下にタオルで巻いた氷のうで体温を下げる方法や、体を水でぬらしウチワであおぐなど）

などです。

専門のホームページがあるのでさらに詳しく調べてはいかかでしょうか。

熱中症、熱射病、日射病のホームページ（<http://heat.gr.jp/>）

参考資料：

「自然体験活動の安全対策」 野外安全対策研究会

「水辺の安全ハンドブック」 月刊 Outdoor（2001年8月号別冊）

「OUTDOOR」 http://www.jrcnav.com/outdoor/od_menu2.dml?menu1.code=002

「海の安全管理」 <http://www.fop.co.jp/fop/education/risk/risk04sea.html>

「海の危険生物」 <http://plaza14.mbn.or.jp/~omsb/cont/sea.htm>

海の活動に対するチェックシート

1. プログラムの作成		確認日	備 考
	1. スカウトの技量・体力等を考えたプログラムですか？		
	2. 初心者や経験者を指導する者の選定をしましたか？		
	3. タイムスケジュールに無理はありませんか？		
	4. 進歩にかかる技能習得のための課目が盛り込まれていますか？		
2. 予備（下見）のチェック		確認日	備 考
	1. 実施場所周辺の下見をしましたか？		
	2. 岩場・砂地・湾内等の地形を確認しましたか？		
	3. その海域の特徴を地元の人（漁師など）から確認しましたか？		
	4. 漁協等と連絡をとり、立ち入り禁止区域、遊泳区域等を確認しましたか？		
	5. プログラムの実施に適した楽しい場所を確認しましたか？		
	6. 活動範囲を決めましたか？		
	7. 潮汐表で満潮時、干潮時を確認し、実施日と同じ潮位の状態を確認しましたか？		
	8. 水温を確認しましたか？		
	9. 監視する場所・活動エリアを見渡せる場所を確認しましたか？		
	10. トイレ・シャワー・着替え・日陰・休憩場所・本部の場所及び連絡方法についての確認しましたか？		
	11. 病院や救護所等の確認しましたか？		
3. 管理体制のチェック		確認日	備 考
	1. 緊急用具を用意しましたか（救急薬品・湯・酢・水・毛布・担架・浮き輪）？		
	2. 危険な生き物の情報を調べ、対処方法を用意しましたか（酢・湯・薬）？		
	3. 危険な場所を地図等に明記しましたか？ 特に流れの速い場所・滑りやすい場所・テトラポット・監視から死角になる場所		
	4. 避難場所（地震・津波・台風）を確認しましたか？		
	5. 警察・消防・病院に連絡しましたか？		
	6. 休日、夜間対応可能な救急病院の確認しましたか？		
	7. 携帯電話がつながりますか？		
	8. 緊急時の連絡体制を確立しましたか？		
	9. 関係機関・保護者への連絡体制を確立しましたか？		
	10. 賠償責任保険・傷害保険の再確認しましたか？		
4. 活動前日及び実地中のチェック		確認日	備 考
	1. スタッフ間の役割分担を確認しましたか？		
	2. 天候・海況の予報を確認しましたか？		
	3. スカウト及びスタッフの健康チェックをしましたか？		
	4. 定期的に、人数確認をしていましたか？		
	5. スカウトの単独行動にならないように配慮していましたか？		
	6. スカウトに危険な生物や物、行為について注意をしましたか？		
	7. 周囲の変化に注意していましたか？（天候・海況等）		
	8. 外部からの情報（天候・海況）が入手できる状態になっていますか？		
	9. プログラムの進行状態を管理していますか？		
5. 事後のチェック		確認日	備考
	1. 安全対策に対する反省をしましたか？		
	2. 保護者にスカウトに関する連絡事項を伝えましたか？		
	3. 協力機関への連絡、挨拶はしましたか？		

ハイキングの安全対策



ハイキングにもルールがある。交通ルールと同様に「右歩き」や「左歩き」、「上るとき」や「下るとき」など、状況により優先される側、譲る側とがあり、お互いに譲り合いの精神が必要である。

私達のハイキングでは、年齢差のある、複数の人が一緒に歩くことが多い。指導者は参加者の体力や歩くペースをしっかりと把握する必要がある。また、自分勝手な行動は迷惑以外のなにものでもない。お互い協力しながら、楽しいハイキングを行いたいものである。

1. 下見

- ・ハイキングの実施時期、場所、費用、コースの選択、所要時間、安全面、周囲の環境等全般にかかわる事柄を考慮（特に女子スカウトがいる隊においてはトイレの場所の確保等）し、指導者もスカウトと共に楽しめる企画が必要である。
- ・通常のハイキングのほかに夏季キャンプ中のハイキングでは、最初の下見とキャンプ実施直前では、気温、環境等がかなり違うはずである。この辺も十分考慮し、万全の計画・対策を練り、指導者間の共通理解を深めておく必要がある。
- ・埼玉県連盟の野営・行事委員会、健康・安全委員会が発行したハイキングに関するチェックリストを活用する。
- ・地元の人たちからも情報を得ておく。
- ・下見に基づき、安全体制（緊急時の連絡方法等を含む）を作成し、指導者はもとより、スカウト並びに保護者に対しても周知徹底をはかっておく。

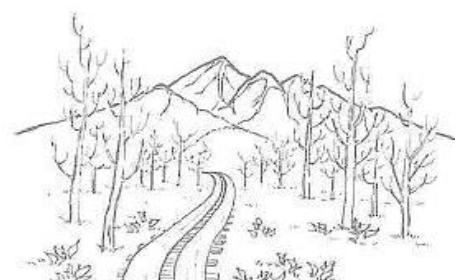


2. 目的をもつ

- ・ハイキングには目的によりさまざまな形態が考えられる（歓迎ハイク、追跡ハイク、観察ハイク、夜間ハイク等）。単に、ハイキングコースや山道を歩くだけでは、疲労度が増すだけであり、状況の判断力、決断力が鈍り、思わぬ事態が発生することが考えられる。楽しく、安全にハイキングを行うために、はっきりとした目的をもって実行する。
- ・ベンチャー隊、ローバー隊では、個人あるいは少人数でのプロジェクトを組む場合が多いので、少人数であるがために、安全面については事前に十分な対策を講じておく必要がある。指導者はスカウトと共に話し合い、実施計画書を点検し、計画を認めるか否かを判断する。時にはインストラクターを要請する。

3. 計画を立てる

- ・計画を立てる場合、参加するスカウトの年齢、体力を考慮し、無理のない計画を立てることが必要である。
- ・実施場所の資料を集め、予備調査を行い、休憩場所やトイレ、緊急の場合の対処（連絡体制等）を考慮し、コースを決めるべきである（この段階も安全面を優先させる）。念のため、最寄りの病院の場所と電話番号も調べておきたい。
- ・交通手段については安易に自家用車や観光バスは避けたいものである。特にボーイ隊以上のスカウトには！



きれいな景色も、楽しい思い出の1ページに！

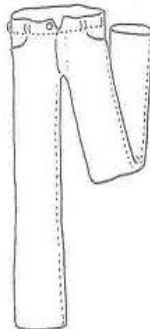
4. 装備品と服装

- ・目的によって、装備品は大きく変わってくる。隊で用意する備品、個人で要する備品、いずれにおいても必要最小限の装備にし、余計な荷物は増やさない努力が必要である。言葉どおり「重荷」になる。
- ・救急用品については個人備品、隊備品とに分け、時期や場所によって用品を選別し、持参する。
- ・服装についてはハイキングコースを考慮し、活動しやすいものにする（制服はなじまない）。夏でも長袖シャツは必要である。また、着替えのシャツや靴下も用意したいものである。

半ズボンよりは長ズボンの方がよい。



防寒着として、ウィンドブレーカー（薄いもの）を準備し、朝晩の寒さから体を守ることも必要である



手袋は、必ず持って行くこと。



靴は、できるだけ、はき慣れたものを使用する。



ハイキングでは、自然の厳しさや優しさをおおいに実感したいものである。鳥の声、そよ風や木々のざわめきに耳を傾け、秋の紅葉や可憐な花に目を向け、新緑の香や土の匂い、清流の冷たさなどを肌で感じとる。たんに、課題を消化するためだけでなく、五感に訴え、自然の中でのびのびとした活動ができる感性の豊かなスカウトを育成するようなプログラムを含んだハイキングを計画したいものです。

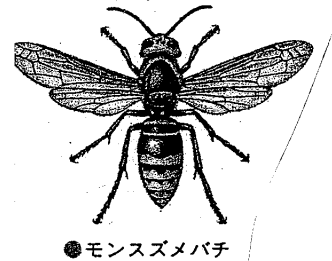
野外に於ける危険な生物

1. 危害を加える身近な昆虫

蜂

膜翅目^{まくしもく}に属する昆虫の総称で世界中に 10 万種類以上

が知られている。頭には1対の複眼、3個の単眼、1対の触角そして胸部には丈夫な4枚の膜質の羽がある。もっとも進化した有剣類^{ゆうけんるい}は大半が動物食性であり、働き蜂であるメスの産卵管が毒針に変化して獲物となる幼虫を刺して麻痺させる機能を持つ。



蜂は人間にとっては刺すという害をおよぼす昆虫

と見られる傾向にあるが蜂がいなくなると蜂の食べ物である幼虫が増え、農作物がよく育たなくなり食料の確保が難しいなったり果樹の受粉の手助けをするという益虫でもあるのでむやみに殺したりしないようにしましょう。

蜂は春に巣を作りそして夏ごろに子育てを始めると食料を確保するために、また巣を守るために活動が活発になり攻撃的になる。この季節にはとくに針の毒性が増すこともあってひどい時には死にいたることもある。最近では特にスズメバチの大量発生が各地で相次いでいる。これらの蜂を刺激しない方法、刺された場合の基本的な処置の方法等を示す。

○ 蜂を刺激しない方法

・ 巣に近づかない

巣を守るために近づいてくる外敵を刺すという本能を持っている。

・ えさを取っている場合には近づかないように気を付ける。

クヌギ、コナラ、ニレなどの木の樹液、ぶどうや梨などの果実には蜂が集まってくる。

・ 服装に気を付ける

なるべく白地の服装とし、肌を露出しないようにする。(特に顔や頭)

・ 蜂を見たら動かない

蜂を見たら刺激しないように出来るだけ姿勢を低くして動かないようにして飛び去るのを待つ。

○ 蜂に刺された場合

・ 刺された場所から離れ、涼しい場所に待避する。

・ 針が残っている場合は速やかに取り除く。

・ 毒を絞り出す等の処置を行う。

・ 冷水で患部を冷やす。

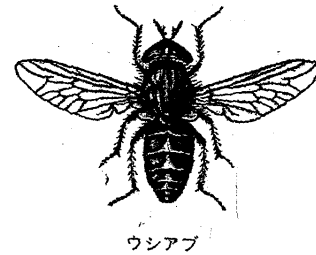
・ 赤くはれたところに抗ヒスタミン剤軟膏をぬる。(薬品の使用は極力控える)

・ 医者診療を受ける。

アブ

双翅目^{そうしもく}に属し、日本では約 100 種、世界で約 1600 種が

ある。蜂の 2 対と異なり 1 対の羽を持つ。一般的なアブは吸血しないがウシアブやゴマアブ等の雌成虫は吸血性である。特に牛馬などの家畜を襲撃し、人間もよく吸血される。動物の呼気中の炭酸ガスに誘われ、動物の体温を感じて興奮して口器で皮膚を切り刺して流れ出る血液をなめる。幼虫は湿地に生息し、水田、腐木の下などに見られる。尾端に呼吸管を持ち、水中では水面にこれを出して呼吸する。幼虫は田植えの忙しい時に水に浮かんで刺す。アブの唾液中に含まれる特殊なたんぱく質によって引き起こされる腫脹^{しゅちやう}と疼痛^{とうつう}は人によっては数週間続くこともある。アフリカやアメリカの一部に生息するアブには悪性貧血病などの伝播する病気をもっている。



○ 予防法

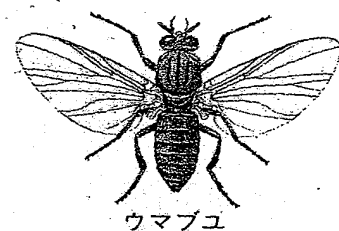
- ・ 生息していそうな湿地等に近づかない。
- ・ 湿地などに定期的に殺虫剤をまく。
- ・ ジメチルフタレートを含む忌避剤^{きひざい}を塗る。

○ アブにさされた場合

- ・ 抗ヒスタミン剤によって痛痒感^{つうようかん}を取り、掻きこわして化膿しないようにする。
- ・ 刺された部分の粘液を吸い出す。

ブヨ

アブと同じ双翅目に属するがアブよりも小さく体長 2～8mm 程度である。日本では約 40 種、世界で約 1000 種が報告されている。幼虫は溪流や小川の流水域に生息し、汚れた水や止水には生活できない。水の汚染に対して敏感に生息密度が減少するので水質汚染の指標昆虫になる。



前脚の先端には小さい鉤^{かぎ}が列生して吸盤となっており、口には集餌用の扇状の刷毛が発達している。

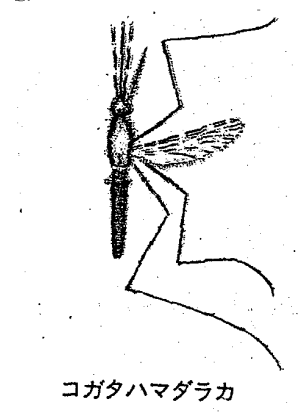
ブヨは人体の露出部はもちろんのこと服地の上からも刺し、その搔痒感^{そうようかん}、疼痛^{とうつう}は蚊やノ

ミよりも激しく腫脹^{しゅちやう}もひどい。治癒に 1～2 週間かかり、多くは掻き壊^かして化膿創になりやすい。

予防法および刺された場合の対処はアブと同じである。

蚊

双翅目^{そうしよく}に属し、日本には 103 種、世界では約 2500 種が知られている。口部は針状で頭部下面より前方に突き出ており、雌成虫はすべてこの針を生物に刺して血を吸う。蚊は卵、幼虫、さなぎ、成虫の順に一生を過ごす完全変態をする昆虫であり、一般的には水面部に産卵して夏の気温においては2日くらいで孵化^{ふか}しボウフラと呼ばれる幼虫の水中生活となる。水中をゆらゆらと泳いで水面や水底でえさを取って成長する。尾端に呼吸管を持ちこれを水面に出して呼吸する。



コガタハマダラカ

吸血の多くは脊椎動物^{せきついどうぶつ}から行われるが種類によって嗜好^{しこう}がある。成虫は特に空腹時に動物の呼気中の炭酸ガスに引き付けられ、さらに皮膚から発散するにおいに寄せられるという。活動時間も種類によって異なり、ヤブカは日中活動性で特に夕方にピークが見られ、コガタアカイエカは日没直後と夜明け前に多く活動する。アカイエカは深夜にピークが見られる。カが動物を刺して吸血する際に皮膚に疼痛^{とうつう}やかゆみ、発赤を生じる他に種類によっては伝染病の病原体^{ばいきい}を媒介する。

○ 予防法

- ・ 発生源である汚水を排水したり掃除をしたりする。
- ・ 汚水に殺虫剤を定期的に散布する。
- ・ 家屋への侵入を防いだり、蚊帳を張ったりする。
- ・ 香取線香などの蒸散剤を使用する。
- ・ ジエチルトルアミドを含む忌避剤^{きひざい}を塗る。

○ 刺された場合

- ・ 毒性を中和する薬品を塗る。

蛾

蛾と蝶の区別ははっきり判別出来ないが一般的に蛾は蝶より太身に鱗粉が多いとされている。

幼虫が毒針毛を持ち、皮膚に炎症を起こす種類や成虫にも多数の毒針毛が付着している種類もある。乾燥食品や貯蔵穀物につく幼虫は家屋や倉庫内に住んで食い荒らす種類や毛皮や毛織物を食い、穴をあけてしまう種類もある。多くの蛾は夜間に電灯などに誘われて人家内に飛び込んでくるので食事中に飛び回って鱗粉を落としていたりして不潔感がする。



キイロアサシヤガ

但し、蛾は果樹の結実に有効な花粉媒介の役割やまたカイコという糸を取り出す養蚕業と必要不可欠な生物の種類もある。

○ 予防法

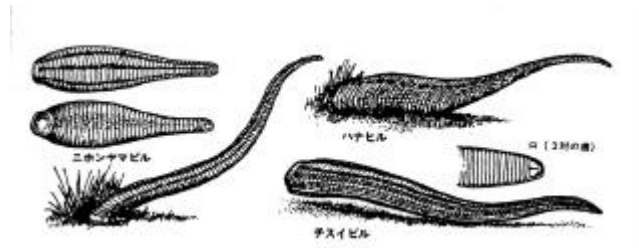
- ・ 屋外に誘蛾灯を設ける。
- ・ 窓に網戸などを付けて進入を防ぐ。

ヒル

事故の起こりやすい

「季節」⇒春～秋

「時間」⇒6時～18時



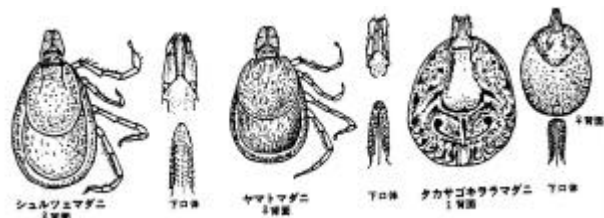
主に、日本に生息する「ヒル」は、ヤマビル・チスイビル。ヤマビル（山蛭）の生息は北海道～沖縄諸島。山間の湿地・草・樹木。チスイビル（血吸い蛭）の生息は、北海道～九州。沼・池・小川の中。雨の日に多く現れ、雨の日に多く、足元からはい上がってきたり、木から落ちてきたりします。ヒル（蛭）に吸血されても、ほとんど痛みを感じず、後で充血して気づき、痒くなる。応急手当は、圧迫止血。不潔なときは、抗生物質を内服する。

ダニ

事故の起こりやすい

「季節」⇒夏

「時間」⇒6～18時



主に、日本に生息する「ダニ」は、マダニ・イエダニである。ダニは、あらゆる環境に適応し生息している。

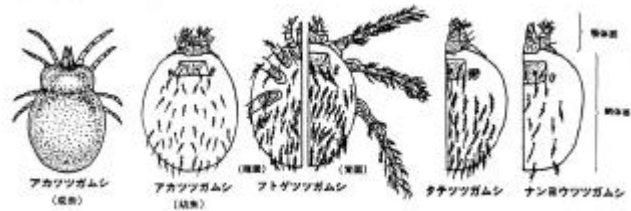
イエダニは、ネズミ・野鳥などに寄生。マダニは、山林・原野のササについていて登山者などに吸着。牧草地などにもいる。関節炎や顔面麻痺・脳炎といった神経症状を起す「ライム病」の病原体を媒介するにで、噛まれない様注意する。噛まれないためには、できるだけ皮膚の露出を避ける。噛まれると、初めは周辺の皮膚が赤くなり、頭痛・発熱・筋肉痛をとまなう。帰宅後、皮膚が赤く変色して丸く広がったら皮膚科で治療を受ける。

ツツガムシ

事故のおこりやすい

「季節」⇒夏

「時間」⇒6～18時



主に、日本に生息する「ツツガムシ」は、アカツツガムシ・フトゲツツガムシ・タテツツガムシ・ナンヨウツツガムシである。ツツガムシの生息は、北海道～沖縄。川岸のアシの中に多い。幼虫が「人」に吸着してリンパ液を吸う。局所の症状は見られないが、時にツツガムシ病を媒介する。この場合は、刺口のリンパ節が腫れ2週間の潜伏期の後、高熱が出て、全身に発疹を生ずる。ツツガムシ病の場合は、クロラムフェニコールやテトラサイクリン系の抗生物質が効果がある。痒みには、抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を塗る。生息地が決まっているので、入らない様にする。やむを得ないときは、ジェチルトルアミドなどを塗る。

2. 野外活動における危険な生物

野外活動は、多様な生物の生息する領域に、我々スカウトがお邪魔するわけです。彼ら固体としては人間のように意識的に攻撃的する固体はおりません、生物自身が危険だと感じたときのみ攻撃するわけですから、野外活動を行うものは、その生物の特徴を捉えて、彼等の領域に踏み込むときには最善の注意をはらう必要があります。

危険な哺乳類

ヒグマ

日本に、生息する動物の中で、最大で最強の動物である。体毛は茶褐色で頭から肩にかけて金毛の生えているものもいる。

生息地は、北海道にのみ生息しており、筆者は知床で野生のヒグマを見たことがある。

また、羅臼岳に登山をした時、その下でキャンプを張ったとき、新しいヒグマの糞を発見し、テントを襲われることを避けるために、缶詰以外の食料は、ビニール袋に厳重に包んでハイマツの下に隠したことがある。

遠目には黒く見えずんぐりとしているが、走る速度は意外と速く、歩行中に発見をしたならば素早く遠ざかることが最善である。

死んだまねをしたら助かるというのは迷信である。又、つめが長いので木登りも大得意で、木の上に逃げることもベストではない。



鈴とか豆腐を売るときのラッパは、殆ど意味がないものだと思ってください。もし、遭遇をしてこちらに向かって走ってきたら、リックあるものを次から次へと投げて、彼らがそれらに興味を示す時間を稼ぐことで、逃げ切るほかないようだ。

ヒグマが登山道や観光スポットに現れるような状況の場合は、地元の営林署や観光担当等が登山やキャンパー達に知らせますので、これらの注意には従うようにしてください。怖さ見たさに行ってみようとする行為は愚かなことと思ってください。

また、これらの生息地（北海道の森林帯・知床の全域・北見・大雪山系に行く場合は、唐辛子の粉末が飛び出すスプレーや枝木に容易にくくりつけられるナイフを持参して、遭遇した場合は鼻の部分を押くなどパニックにならずにあらゆる手段を講じてください。彼らは、甘いのが大好きです、登山道にあり塚などがあるとそこに立ち寄ります。氷砂糖をばら撒くのも効果があるかもしれません。

ツキノワグマ

そんなに大きくなく、コロコロして黒い感じがツキノワグマです。

山の中では、カモシカもそのように見えますが、彼らは足の部分がスマートに見えますし、ある程度の距離を持っているとじっとしてこちらを見つめているのですぐ区別がつきます。

沖縄県以外の全ての地域にすんでいます、関西以西は個体数が少ないようです。

彼らは、意外と臆病な動物で彼らから進んで人間に近づこうとはしませんから、そんなに危険を感じることはありません。彼らは必要以上に人間に怖がられているので心外だと思っているのかも知れません。

むしろ彼等の生息地に入るときは、人間がここにいるぞといった意思表示をする必要があります。

ツキノワグマの生息地に入る場合は、仲間同士で声を出して会話をする。また、ザックに鈴や鐘をつけることは熊にこちらの位置を知らせる意味で効果的です。

新聞でよくツキノワグマに襲われた記事が春の新聞に載っています。大方の被害者は山菜の根曲がり竹や溪流釣りの人々に多いようです。

山菜取りに夢中になって出会い頭に熊に出会うことが多いようです。恐ろしさのあまりに声も出せず、熊もついつい手を出したりする結果が襲われたことになるようだ。釣り客の場合は、竿が春先に生まれた子どもへの危害行動と感じた母熊が釣り客に襲うケースで、これは子どもを守ろうとする母性の働きの何者でもない。子どもを虐待する人間に聞かせたいものである。

もし出会ったならば大声を出したり、棒を振り回すなどして相手を威嚇し、ひるんだ隙を見計らって逃げるようにする。子ずれの熊の場合は棒で威嚇するとかえって危険ですから充分注意しましょう。

出会わないために、あくまでこちらがいることを熊に知らせる手立てをすることが最善の方法です。又、ダム建設やゴルフ場、大型墓地の造成で彼等の縄張りが侵されると、彼らは食料を求めて危険でも里山に下りてきます。

それは彼等の責任ではなく、人間の身勝手な行動だということを感じていただきたいものです。



イノシシ

イノシシに出会うことは、熊よりも貴重な経験だと思います。夜行性で人間嫌いですから、彼等の糞や、木に体をこすりつけた時の痕や体毛などのフィールドサインでイノシシの存在を知ることが出来ます。

私の団で長野県の下伊那の山中で、開拓キャンプを行ったときに、テントを張るフィールドがイノシシによって掘り起こされていたことがあります。



また、日本ジャンボリーが2回行われた南蔵王青少年野営場の草原のフィールドで『うりこ』といわれる、イノシシの子ども現われて、キャンプをしていた子どもが大声を出したことがありました。「貴重な経験をしたよ」と言ったことがあります。

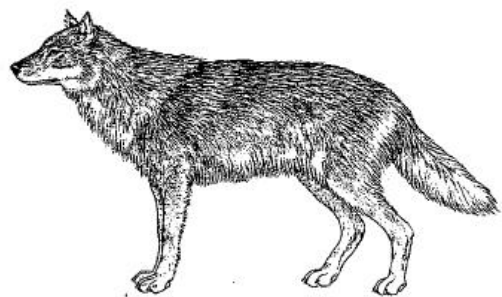
日本全国に生息していますが、北国の積雪地帯には生息固体が無いようです。関西など西日本には数多く生息し、農村部の肉屋さんなどでは『ボタン肉』（イノシシの肉）がありますなどの張り紙が貼ってあることがあります。

もし、イノシシに出会うことがあった場合の避難の方法としては、彼らは猪突猛進の言葉でいわれるように、猛然と突撃してきますので、地面より高くなった岩の上や木の上に避難してください。

牙に刺されての出血や突撃による骨折がありますので、消毒し状況によって止血をする。また、副木を当てて骨折の応急手当を行い、医師に見せること。

ノイヌ

人間の身勝手さによって捨てイヌになったものが野犬になり、世代を重ねて群れを作って都市部の公園や近郊の山林・墓などに生息し、夜間、残飯などをあさる。



野犬が近寄ってきたら、攻撃される角度を少なくするために、塀や建物の壁を背にする。棒切れがあれば、それで攻撃されないように構える。又、石ころなどがあれば、威嚇に投げる。

背を向けて逃げることは、もっとも危険な行為なので、相手の目を見ながら少しずつ逃げ建物の中や、彼らが上ることが出来ない所に避難する。

被害者は圧倒的に、幼児や女性など非力のものが襲われる傾向が強いので、ビーバーなどは特に気をつけること、かまれた場合は、傷の手当は勿論だが、日本には狂犬病が根絶したが検査はしておく必要があるかと思います。それとともに、野犬がいた場所を保健所に知らせ被害者が出ない処置をしましょう。

図版「イラスト・アニマル」総監修 今泉 吉典 平凡社 1987年出版

図版「野外における危険な生物」編集・監修(財)日本自然保護協会 1982年出版

ヤマカガシ

全体として黒っぽい感じのヘビで、左右の側面に黒班が並び、特に前半身では黒班の間に赤い模様がめだつ。首筋は黄色い。

関西方面のものは一様に茶色で、黒班はあまりない。

全長は通常1m前後。まれには1.4mくらいの個体も見られる。水田や河川などの水の周辺に住み、餌になるカエルさえいれば、その近くの山野にも見られる。

本州、四国、九州、大隅諸島に住む。

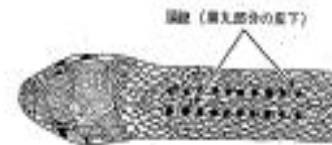
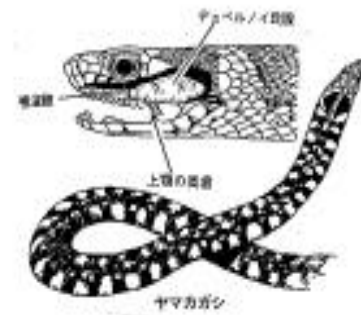
ヤマカガシはおとなしいヘビで、自然のバランスを保つうえで、山と田園の環境作りに大きく貢献している。

○ 予防法

- ・ 人間の方から手を出さない。
- ・ 飼育その他の目的で直接ヤマカガシを手にとったりしない。
- ・ 殺すために棒で叩いたりしない。

○ 噛まれた場合

- ・ 局部を水で洗って様子を見る。
- ・ 半日ないし一日以内に異常が生じなければ安心。
- ・ 古傷から出血が止まらない、皮下出血、歯茎からの出血、赤い尿、尿が出ない等の症状が現れたら病院へ行ったほうがよい。
- ・ 口の毒の他、防備のために顎部に二列の毒腺を持っている。顎部の毒が目に入ったら激痛を感じる。水で目を洗って眼科医に見せる。



ニホンマムシ

太くて短い小さなヘビである。この点だけでも本土の他のヘビと区別できる。

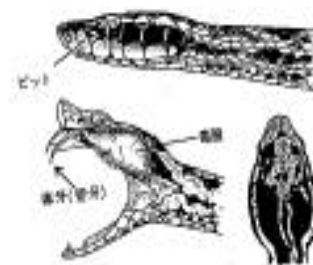
体色は変異が大きい、模様ははっきりしていて、褐色系の銭型斑点が左右交互に並んでいる。

斑点と同じ色の広い帯が顔にあり、帯の上部は薄黄色の線で縁取られている。

目は猫のように楕円形で、鼻腔と目の間にピットという穴がある。

アオダイショウの子はよくマムシに間違えられるが、マムシのような赤っぽいまたは茶色っぽい体色はなく体は細く、目は魚のように真ん丸い。

マムシは、山地にも平地にも隠れる場所と餌さえあればどこにでも住めるが、特に田畑のような開けた所



の縁によく見られる。

主として人家を避けるが、宅地造成などの環境破壊のために住処を追われ、餌を求めて人家の庭などに現れることもある。ニホンマムシは毒ヘビとしては、決して危険な方とはいえない。小さくて、おとなしくて、攻撃しない。

○ 予防法

- ・ 人が裸足で踏んだり、手にとったりしない。
- ・ 腰掛けたりする場所に注意する。
- ・ 登山靴程度の靴を履く。
- ・ 見かけても放っておくこと。50cm 以内に近づかない。

○ 噛まれた場合

- ・ 局部は激痛がし腫れるが、あわてずに医療施設に行くこと。
- ・ 顔や首のあたりを噛まれたら腫れて窒息の危険があるので、早急に医療施設に行く。

ハブ

ハブは神経質で人が近くを通っただけで噛みつくし、ものに登る習性があるため、高いところから人間の胴にも噛みつくことがあるので、マムシと違ってきわめて危険なヘビである。

背面は普通黄褐色で、大きな黒っぽい斑紋が並んでいる。頭は非常に大きくて長い三角形で、首は著しく細い。

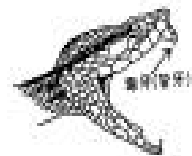
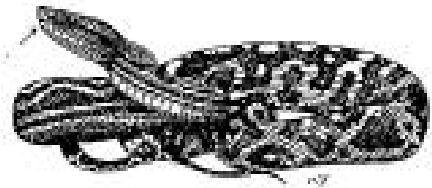
全長は、1m～2m で、噛みつくときは、口を広く開けて牙を立て、頭を投げるようにして、「噛む」より「刺す」という感じで攻撃する。

昼間は森の茂み、石垣や洞窟などの穴、ソテツ林、畑や山ろくなどに潜み、夜活動す

る。

ネズミなどを求めて人家に近づき、庭や便所にもよく入る。低木や農・林動わきの崖にもよく登る。主に4月から11月にかけて活動しているが、冬にも見られる。

奄美諸島、沖縄諸島に住む。



○ 予防法

- ・ 穴に手を突っ込んだり、落ちていた枝を拾う前に良く注意する。
- ・ キャンプでの夜歩きや、屋外での排便などに特に気をつけること。

○ 噛まれた場合

- ・ 局部が痛み、腫れる。毒の回りが遅いので、慌てずに医療施設に行く。
- ・ 顔や首のあたりをかまれた時は、なるべく早く医師に見てもらう。

サキシマハブ

体型はハブに似ているがハブより小さい。

体長は 60～120 cm ぐらいである。

背面は灰褐色で暗褐色の斑紋がジグザグに並んでいて、かなりきれいなヘビである。

八重山 群島では頭が大きくて三角形なのは本種だけなので、間違える事はない。

八重山列島に住む。山にも平地にも住んでいるが、山麓に多く、畑や人家近くにもみられる。



○ 予防法

- ・ ハブと同じ

○ 噛まれた場合

- ・ なるべく早く医者に見てもらう。
- ・ 壊死による後遺症が起こる場合もあるので、その場合は血清の治療が必要。

スッポン

産卵期以外は、ほとんど水から出ないカメの一種で、特徴は甲羅が柔らかい皮膚に覆われていると言う事である。顔も柔らかい皮膚に覆われ、鼻は管状になって、鼻腔はブタのようにその先端にあり、前に向いている。水中から鼻の先だけを出して呼吸できるようになっている。

水底が泥になっている沼や川に住んでいる。

本州、四国、九州、壱岐、石垣島、西表島、与那国島に住む。

柔らかそうな唇の下に鋭いナイフのような顎があり、噛みつかれると肉がちぎれる事もある。

噛みつくのがとても早いのでモタモタしていると噛まれる。毒は無い。



○ 予防法

- ・ 扱う時には網を使う。
- ・ どうしても手で扱う必要がある場合、口がとどかないところを掴む。
- ・ 爪も鋭いので引っかかれないよう注意する。

○ 噛まれた場合

- ・ 普通の外傷として扱い、バンドエイドなどをつける。
- ・ 傷口が大きい場合、外科医に見てもらったほうが良い。

アカハライモリ

背面は黒ないし褐色で、腹面はオレンジないし赤色である。腹面にはまた不規則な黒い斑点があり、その数と大きさなどは個体と地方によって異なる。

全長は 8cm～13cm ぐらいである。

池、水田、沼沢、小川などに住んでいるが、陸などに上がって活動する事もよくある。

本州から、四国、九州、大隅諸島までの特有種で、南西諸島には良く似たシリケンイモリがいる。

毒性はアカハライモリとほぼ同じである。

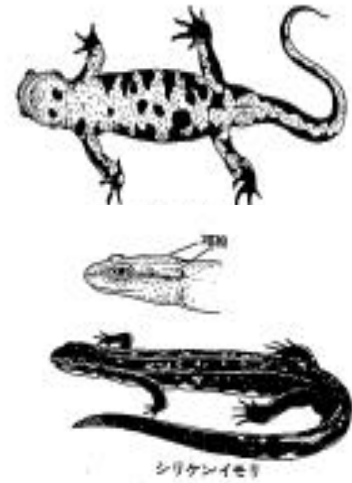
毒はフグと同じ物質であり、皮膚及び筋肉に存在する。毒が目に入った場合、激痛を感じる。食べた場合の全身的な中毒の記録はないが、フグ中毒に似るものと思われる。

○ 予防法

- ・ イモリを手にとったとき、目や口に触らないように注意し、良く手を洗う。
- ・ 薬として食べることも危険と思われるので避ける。

○ 応急手当

- ・ 口や目の場合、水で良く洗う。



ニホンヒキガエル

日本の無尾類の中で最大級のもので体長は 15cm にも達する。目の後ろに耳腺と呼ばれる大きないぼ状の突起があり、背面及び側面じゅうに様々ないぼ状の突起が点在している。

色は変異に富むが、大体において褐色系統である。他のカエルのように上手く跳べず移動する時はむしろ歩く。本種のほかに日本には、ナガレヒキガエルおよびオオキヒキガエルがいる。

いずれも一見してヒキガエルの類とわかる。

森林、田畑、人家の庭など、やや湿ったところに住む。

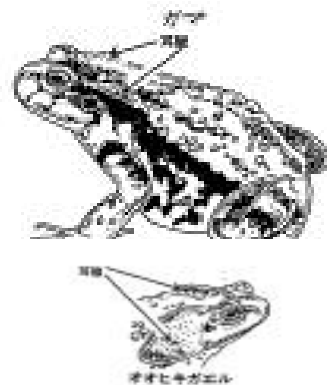
分布は本州、四国、九州、大隅諸島。ミヤコヒキガエルは宮古島、オオヒキガエルは南大東島、北大東島と小笠原諸島(父島)。ヒキガエルの毒は、耳腺やその外の皮膚腺にある。毒液は強く目にしみる。犬が口にくわえた後、泡を吹くので、口にもしみると思われる。この他、同様にアマガエルとハロウエルアマガエルも皮膚に毒を持っている。主に目を刺激する。

○ 予防法

- ・ ヒキガエルを手で扱ったあと、目や口にさわらないように注意する。
- ・ 触った時は、良く手を洗う。

○ 応急処置

- ・ 必要に応じて目を水で洗う。



スカウト活動に必要な保険

現代人の活動においては、あらゆる場面で事故の可能性を否定することは出来ません。もちろん未然に防ぐための細心の努力を尽くすことは言うまでもありませんが、万が一の場合を想定し、出来る限りの対応をするための備えが保険です。

保険をかけたからと言って事故が無くなるわけでも、当事者の責任が軽くなるわけでもありませんが、だからと言って保険不要論を唱える事は感心しません。

ボーイスカウト活動についても例外ではありません。楽しいはずの野外活動の最中に、いつ子供達の生命に関わるような事故が発生するかわかりません。現実には、いくつかの悲しい事例が報告されています。

指導者は、あらゆる状況を想定して十分な安全対策を講ずる必要がありますが、当然、事故が発生した場合の備えの一つとして、「保険」の加入を考えなければなりません。

傷害保険

各団がそれぞれの判断で加入する事が必要で、日本連盟としての一括加入はしていません。

傷害保険の中でも代表的な「スポーツ安全保険」と「スカウト傷害保険」について、その内容を比較検討して見ましょう。（表1）

スポーツ安全保険で有利な点は、死亡保険金が2,000万円であるということに加え、「身体賠償責任保険」「財物賠償責任保険」も含まれているということがあげられます。これは、前述のボーイスカウト日本連盟が一括加入している「賠償責任保険」の限度額に上澄みされるものです。

スカウト傷害保険で有利な点は、加入時に名簿提出が義務づけられていないこと等が上げられます。

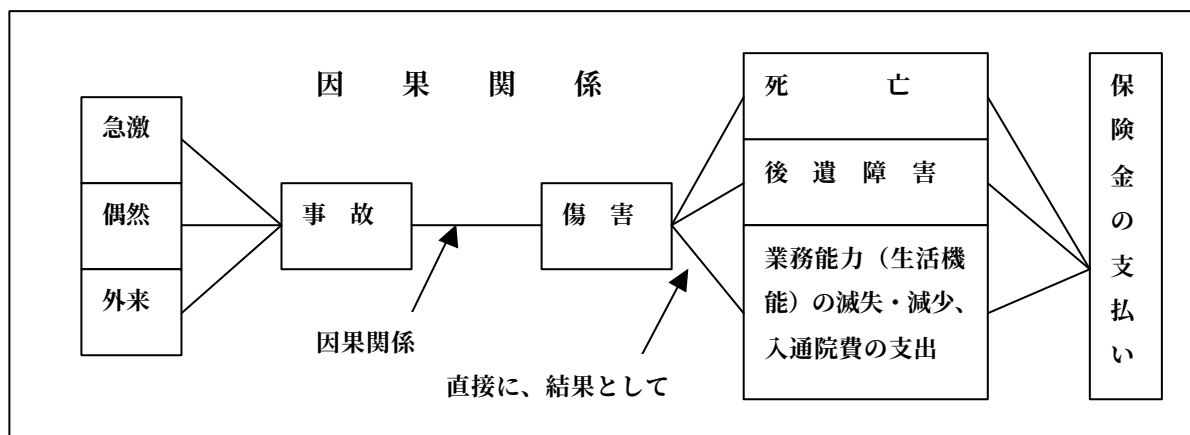
その他、社会福祉協議会が扱っている「ボランティア保険」もあります。各団において資料に基づき内容を比較検討し有利な保険に加入することをおすすめします。

	掛 金 (1人年額)	傷 害 保 険		賠償責任保険 (補償限度額)	共済見舞金
		死 亡 後遺障害	入院 通 院		
スポーツ安全保険 中学生以下/同保護者 (BVS/CS/BS)	500 円	2,000 万円 3,000 万円	4,000 円 1,500 円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円	突然死 160 万円 急性心不全・ 脳内出血等)
大人のスポーツ活動 高校生以上/VS)	1,500 円	2,000 万円 3,000 万円	4,000 円 1,500 円 入院・通院/免責3日	財物賠償 500 万円 共に免責 1,000 円)	
子供のスポーツ団体 指導者	1,000 円	1,000 万円 1,500 万円	2,500 円 1,000 円		
スカウト傷害保険	450 円	345.7 万円 345.7 万円	4,000 円 1,500 円	な し	
	600 円	457.9 万円 457.9 万円	4,000 円 1,500 円 入院・通院免責なし		

傷害保険とは、言葉が示すように「傷害」つまり「ケガ」をすれば保険金の支払い対象になりますが、ここにも大切な定義があります。

その定義とは、急激かつ偶然な外来の事故によって身体に障害を被り、その直後の結果として死亡したり、入院・通院した場合等に保険金を支払うことになっています。

すなわち



という関係になるわけです。

次にこれらについてももう少し詳しく説明します。

1 急激性

単に時間的に短いということだけでなく、予測不能と不可避の2要素が必要です。

- 7) 「屋根瓦の修理中に足を踏み外し転落する事故」について考えると、「屋根瓦の修理中に足を踏み外す」事は予測不能ですし、「転落」する過程は不可避です。
- イ) 「足に合わない靴を長時間はいて歩いて靴擦れが出来た」場合は、「足に合わない靴を長時間履くこと」は不可避とは言えません。その結果「靴擦れが出来る」ことも予測可能なため急激な事故とは言えません。
- ウ) 「有毒ガスを継続的に、吸引、呼吸または摂取した結果生じる中毒症状」は「有毒ガスを継続的に、吸引、呼吸または摂取する」事が急激にあらず事故とは言えません。

2 偶然性

原因または結果の一方または、両方が偶然である事が必要です。また、偶然性は被保険者にとって偶然であることが必要となります。

- 7) 線路上にいれば電車に轢かれる事は当然の結果で偶然性はありませんが、ホームで滑って線路に転落し、結果として電車に轢かれた場合には、原因は偶然であり、偶然な事故となります。逆に自殺を図って線路上に飛び込んだ場合は、原因に偶然性は無く、偶然の事故ではありません。
- イ) ゴルフのスイングをして肋骨を骨折した場合、原因であるゴルフスイング自体に偶然性は有りませんが、結果である骨折は予見不可であり、偶然性があり、偶然な事故となります。

3 外来性

外来性とは、傷害が身体の内から来たものでない事を明らかにする趣旨の要件です。

- 7) 脳疾患、心臓疾患、糖尿病性昏睡時等により意識不明で転倒、あるいは自動車運転中に運転不能になり事故にあった場合等は、事故の原因が身体内部にあたる為外来性の要件から外されます。
- イ) 犬に噛まれて狂犬病に罹った場合や、海に転落し救助に時間がかかり肺炎になった場合等は、急激、偶然、外来の事故を直接の原因としているため傷害事故となります。

4 傷害とは

傷害とは、一般的には「ケガ」ですが、傷害保険においてはさらに範囲が広く、身体外部から発生した原因による身体の損傷を含みます。

従って、打撲傷、切傷、刺し傷、火傷、捻挫、骨折に限らず、内臓破裂、筋違いや窒息（煙による窒息、溺死、食物がのどに詰まった為の窒息死等）、毒物による急性中毒等も対象になります。

5 傷害に該当する具体的な事故例

ア) 水 死

水泳中に溺れた場合、事故により川、海に転落し溺れた場合、家庭内で幼児、高齢者あるいは、飲酒の上入浴中に風呂で溺れる場合等、窒息により死亡や、長時間（5～10分程度）脳に酸素が供給されない為、脳に重大な損傷が残る後遺障害が残る場合があります。また、冷水に入る事により心不全を起こし死亡する事があります。いずれも、急激かつ偶然な外来の事故で有れば傷害となりますが、心疾患が原因で溺れた場合は、外来性に欠ける為傷害保険の対象外となります。

イ) 中 毒

誤って毒物を飲み込んだ、化学工場の事故により有毒ガスが、充満しこれを吸い込んだ等の毒物による急性中毒については傷害保険の対象です。

中毒形態として、肺への吸引、消化器からの吸飲のみならず皮膚からの吸引等があります。

植物性細菌中毒（食中毒）は対象外となっています。また、シンナー中毒、自殺を図って睡眠薬を大量に摂取する等は偶然性に欠け、傷害保険とはなりません。

ウ) 高山病

標高が3,800mを越すと気圧が下がって低酸素状態となり、高山病の可能性があると言われています。高山病自体は疾病となる為傷害保険の対象外ですが、航空機事故で飛行機の与圧が無くなり高山病となったケース等は、疾病の直接の原因が急激、偶然、外来の事故である為傷害事故となります。なお、海外旅行傷害保険では、トレッキングのように運動危険に該当しない場合は疾病治療、疾病死亡で補償します。

エ) 熱中症

高温、高熱の条件下でエネルギー消費量の大きい労働や運動をした時に、体温調節機能に失調をきたし発汗停止、体温上昇、精神障害が発生します。これらの症状を総称し熱中症と言います。

通常の生活・スポーツの中で、発生したものは傷害事故とはなりませんが、その原因が、船の遭難等、急激、偶然、外来であれば傷害事故となります。

＊ 最近の傷害保険で特約として一部、熱中症を補償できるものもあります。

注(1)通常の傷害保険で適用出来ない活動があります。

ア) 山岳登山（ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使うもの）

イ) リュージュ、スカイダイビング、ハングラライダー搭乗等の運動

これらの活動は、一部割増の保険料を払えば補償されますが、保険会社により引受が厳しく断られる場合もありますので注意して下さい。

注(2)主な免責事由として、地震、噴火、津波等の天災、故意、自殺等があります。

加入段階時に「免責事由」を注意して手続きして下さい。